

令和2年3月 発行



緑小よんかけ

- 心をかけよう ○目をかけよう
- 手をかけよう ○声をかけよう



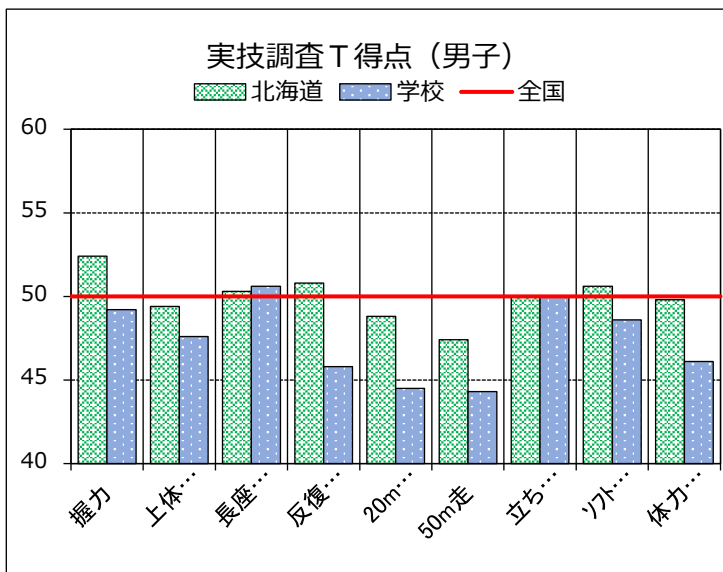
全国体力・運動能力，運動習慣等調査

子ども達の体力を向上を目指し，その実態を把握するために全ての学年で新体力テストに取り組んでいます。そのうち5年生については，全国的な調査の対象となり「全国体力・運動能力，運動習慣等調査」として測定結果を報告していますが，その結果が届きましたのでお知らせします。

体力テストの種目は，以下の8種目です。

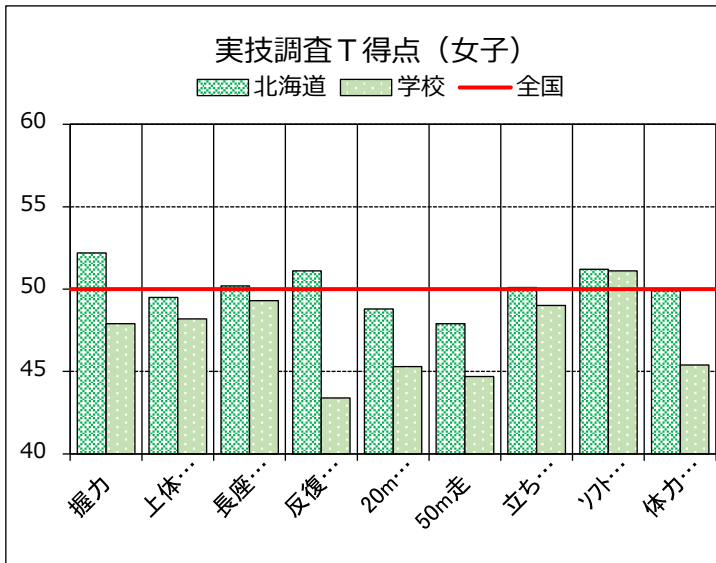
体力テスト種目	単位	体力要素	測定
① 握力	kg	筋力	左右握力の平均値
② 上体起こし	回	筋パワー・筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
③ 長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈したときの両手の前方への移動距離
④ 反復横とび	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
⑤ 20mシャトルラン	回	全身持久力	20m走行の折り返し回数
⑥ 50m走	秒	疾走能力	50mの疾走時間
⑦ 立ち幅とび	cm	筋パワー・跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した直線距離
⑧ ソフトボール投げ	m	巧緻性・投球能力	ソフトボールを遠投した距離

<新体力テストの男子の結果>



- 長座体前屈と立ち幅とびは，全国平均と同等または上回る結果となりました。
- 他の種目については，全国平均を下回る結果となりました。
- 特に，20mシャトルランと50m走については，5ポイント以上低かく，反復横とびも4ポイント程度下回る結果となったことから，「持久力」「走力」に大きな課題があることがわかりました。
- 総合的には，運動能力の上位層が極端に少なく，下位層が極端に多いことから，全体的な運動能力の低下がうかがえる結果だといえます。

<新体力テストの女子の結果>



- ソフトボール投げは全国平均を上回る結果となりました。
- 他の種目については、全国平均を下回る結果となりました。
- 特に反復横とびは6ポイント以上低く、20mシャトルランと50m走については5ポイント程度低かったことから、男子同様「持久力」「走力」に大きな課題があることがわかりました。
- 総合的には、上位層が極端に少ないですが、下位層ではそれほど大きな差がないことから、運動の機会が増えれば差は縮まると考えられます。

<児童質問紙の結果>

- 運動が好きな児童は全国と比較しても多く、特に男子は13ポイント程度も多くなりました。
- 「上手にできた時」や「仲間と活動している時」に運動の喜びを感じると答えた児童が多くいました。
- スポーツの意義や大切さを感じている児童が多く、全国よりも男子で10ポイント以上、女子でも3ポイント以上高い結果となりました。
- 進学後もスポーツをしたいと答える児童が男女とも全国平均を上回りました。
- 1週間の運動量は男女とも土日が多く、学校で体を動かす機会は少ないことが明らかになりました。
- 平日のテレビやゲームに費やす時間は全国の2倍以上とかなり多く、体力の低下につながっていると考えられます。
- 授業のめあてや振り返り、仲間との話し合い活動の実施率は、全国と比べて低く、ただ体を動かすだけでなく、目標をもって取り組むことがより子ども達の成就感につながると考えられます。

<考察>

- 運動が好きな児童が多いことから、その機会を増やし、目標をもって活動できるような取組をさらに考えていきたいと考えています。また子ども達が、成就感ややる気を感じられるように、授業改善に努めていきます。
- テレビやゲームの時間を減らしていくなど、生活習慣の改善が体力向上には不可欠です。生活リズムチェックシート等を活用し、家庭と連携しながら体力向上につなげていきます。
- 「走力」や「持久力」の向上につながる「おにごっこ」や「ケードロ」など、積極的にグラウンドで遊ぶ環境づくり（全校遊び等の児童会活動、イベント係等の学級係活動）を工夫し、楽しみながら体力の向上を図っていきます。

緑っ子の活躍

2月24日に行われた「第3回道新杯タグラグビー大会十勝支部予選大会」において、3年生の さんと さんが所属する花園・明星エンジェルスが準優勝になりました。おめでとうございます。
決勝戦で惜しくも敗れてしまったそうです。

